

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600210		
法人名	特定非営利法人 ゆうあいネットあつま		
事業所名	グループホームえがおの家 のど家		
所在地	勇払郡厚真町京町34-1		
自己評価作成日	平成29年 9月 5日	評価結果市町村受理日	平成29年10月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JivovsvoCd=0193600210-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成29年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

〈地域に密着した生活〉
グループホーム設立より、「えがお祭り」「敬老会」「クリスマス会」とホームの大きなイベントには、常に地域の方々の協力により様々な出し物を披露して頂いております。利用者の友人・知人も多数いらっしゃる、披露後の談笑を含め利用者は楽しんでおられます。又、日常におきましても地域の方々の来訪が多く有り、町内散策時、馴染みの商店での買い物時などには、地域の方々とのおしゃべりを楽しんでおり、今後も広く地域の方々との交流を継続していきたいと思っております。
〈馴染みの生活の継続〉
地域性多くの利用者が入居前に、庭を所有しており、花や野菜を育てていました。当事業所も花壇・庭園・菜園を所有しており、種・苗選びから収穫後の調理まで人生の先輩である利用者より経験談を聞き相談しながら一緒に育て、収穫の喜びを共感しています。利用者の介護度が上がり、畑での作業が困難な利用者もテラスに出て作物の成長を確認するなど、その方の力に応じた関わり方でこれまでに近い生活が継続出来るよう今後もお手伝い致しく思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

厚真町中心部に平成23年1月に1ユニット(定員:9名)で開設して後の併設25年3月に1ユニット(定員:9名)を増設した木造1部2階建て準耐火構造2ユニット(定員:18名)の特定非営利活動法人(NPO法人)が運営するグループホームです。
地元中学生の職場体験、福祉体験学習の受け入れや商工会の盆踊り参加、あつま田舎祭り等の行事参加などで地域の人々との交流に努めている。
一人ひとりのその日の希望や生活歴、力を活かしながら花壇や菜園で花、野菜を育て収穫を楽しんだり、馴染みの商店での買い物など本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念・ケア理念をホーム内各ユニット4カ所に掲示し、常に確認できるようにしてある。採用時研修において、管理者が説明し理念を共有し実践につなげているが、一部職員が暗唱出来ないので会議にて確認を続けたい。	事業所理念を見やすい場所に掲示して、日常業務や全体会議等で職員間で共有して実践につなげている。また、理念の浸透に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域・特に町内の行事には利用者様へ声をかけをし、積極的に参加している。ホームの行事には、地域の方々が参加して頂けるように声かけし、えがお祭りは町内10カ所以上にポスターを張らせて頂いた。	地元中学生の職場体験、福祉体験学習の受け入れや商工会の盆踊り参加、あつま田舎祭り等の行事参加などで地域の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内2中学校の職場体験・福祉体験の受け入れを続けている。玄関に「介護お気軽相談処」の看板を揚げ相談窓口を設けている。厚真町「安心ネット」の会員となり、地域貢献に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回を目安に開催し、利用者様の日常生活・活動は写真を添付し報告、事故・ヒヤリは事例を報告することにより、推進委員より意見を頂きサービス向上に活かしている。	年6回を目安に運営推進会議を開催して、事業所の取り組み状況や日常生活の様子などの具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、又、会議前後に意見交換を行う。ホームの行事に参加して頂き実情を把握して頂いた上で、助言を頂く、意見交換を行う等取り組んでいる。	町担当者とは、事業所の行事案内や情報提供しながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修・外部で受けてきた研修の伝達講習・ケア会議でのディスカッションで理解を深めている。玄関の施錠は、防犯上夜間のみ行い、日中は自由に入出ることができる環境である。	指定基準における具体的な禁止の対象となる行為を内部研修会開催や外部研修会参加を通じて正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の伝達講習・全体会議・ユニット会議で話し合い、自分たちの言葉・態度が不適切なものではないか振り返り、虐待の防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開所以来、成年後見制度を利用した利用者が1名いたのみで、内部研修でも数年前に一度取り上げたのみである。個人的に学んでいる職員もいるが、全体として学習することを今後の課題とする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接・入居時に説明の合間合間で疑問点を尋ねるように心がけ、十分な説明を行い、理解・納得が得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情受付書」「相談・要望受付票」を設けている。運営推進会議に家族に参加して頂き意見交換を行っている。	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように苦情受付を明示して、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・ユニット会議にて活発な意見交換を行っている。特にその月の行事担当者からの新提案も多く、行事内容に反映されている。	全体会議やユニット毎の会議を定期的を実施し、職員の意見や要望等を聞く機会を設け、そこでの意見を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与のベースアップ・夜勤手当の引き上げ・資格取得のための助成金制度・母子家庭子育て支援・住宅手当の支給・家庭状況に合わせた柔軟な勤務体系など職員が安心して働ける環境・条件が整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年は、介護職の未経験者・未資格者は、初任者研修を働きながら受講した。職員の力量に合わせた年間外部研修計画を作成し、その計画にそって研修を実施、他に職員が受講希望する研修があると、別に受講も可能である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	町内のグループホームの祭りに参加し、当グループホームの祭りにも来て頂き、利用者を含めた交流の機会をもっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時、ご自宅を訪問し、ご本人様の生活状況を確認しつつ、思いを確認。入所に当たっての不安をやわらげて頂けるように、当ホームの説明をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接日程の打ち合わせ連絡～初回面接・その後の連絡・家族様のホーム訪問など、家族様が不安なこと・要望等を話しやすい雰囲気づくりを心がけて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所までにご本人様・ご家族様・利用していた訪問リハ・病院等より、情報を収集し、職員が共有した上で、入所時には「その時」の要望を聞き、申し送り、連絡ノートを活用しスムーズに継続必要に応じ変更するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「する側」「される側」という意識を持たず、共同生活が出来るよう、又利用者様の持っている力を継続できるよう、掃除・調理・買い物・菜園など一緒に行いながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が来所時には、利用者様の近況を伝え、場合によっては家族様・利用者様共に談笑している。家族様へホームの行事に参加して頂けるようお誘いし、都度職員の出し物などで和やかな雰囲気をつくっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方が気軽に来所して頂ける雰囲気づくりに努めている。町内のイベントに積極的に参加・通い慣れた商店等に買い物に出かけ、知人・友人との会話の場面を多く持てるよう、支援に努めている。	町内の行事参加や馴染みの商店での買い物など本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性・好みを考慮した食席にし、必要に応じ職員の介入も行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の入院先へのお見舞い、ご逝去時のお参り等を続けている。家族様の中には、退去後数年経過しても季節の野菜を届けて下さり、近況を報告しあえる方もいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から希望や意向を話して頂いている。困難な場合は、ケア会議等においてご本人の表情や態度より、思いをくみとろうと職員間で情報を共有し、本人本位の暮らしが出来るよう努めている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、職員間で共有して本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様よりの聞き取り、居宅ケアマネ・入所前に利用していたサービス事業所の担当者より、情報を得、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様よりの話・介護記録等の記録や申し送りよりは言葉以外の表情、行動などの情報を職員間で共有し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月開催しているケア会議にてモニタリングを行い、ご本人様にサービス担当者会議に出席頂き、思いを聞いている。その後のケア会議にて家族様・ご本人様の思いを共有した上で、意見・アイデアを出し合っている。	本人・家族等の意向や要望、サービス担当者会議で職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、介護計画に沿った記録の記載方法の研修会開催を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には利用者の発した言葉・行動を記録しているが、ケアプランに添い、継続したケアにつながる記録にはなっていない部分が多い。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人からの言葉によるニーズが少なく、言葉ではないニーズをくみ取る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事には、利用者に声かけし、積極的に参加している。知人・友人・ボランティアの方には、気軽に訪問して頂ける雰囲気づくりに努め、楽しめる様にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。又日頃より医療機関と密な関係を継続しており緊急時の往診・休診日の連絡体制もできている。	訪問看護の利用や通院への支援、日常の健康管理等で適切な医療を受けられるようにしている。また受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携の摂れている地元のクリニックより、週に2回の看護師の訪問を継続している。職員は「看護師連絡ノート」にて情報・気づきを伝え、看護師は、訪問看護終了後「看護記録」に各利用者の状況を記録し、職員へ申し送りを行い、適切な支援を継続している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は情報提供を行い、入院中は自発的に見舞いに行く職員が多く、病棟看護師との情報交換も行っている。相談員の方からは、退院にむけての現状報告を頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化・看取り指針」の説明を行っている。重度化した場合は、医師・看護師と連携しながらチームでターミナルケアを実施している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、ターミナルケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は地元消防署の協力により、当所にて9月に職員の半数が普通救命講習を受講し、10月に残り半分の職員が受講予定であり、全職員が修了証を取得する。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て全員参加の避難訓練の実施を継続し、誘導方法・連絡体制を確認している。水害時には、町内の他福祉施設へ避難できる協力体制を築いている。	消防署の協力を得て火災避難訓練を実施し、避難場所、誘導方法など確認している。また、普通救急救命講習も受講している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念に基づいて、利用者との関わりを継続するよう、全体・ユニットの会議にて振り返り・再確認をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように全体会議等で話し合い、職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類・食べ物・飲み物など利用者が選べるように支援している。自己決定が困難な場合は複数から選んで頂いている。思いや希望を表現しやすい関わりを心かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者のペース・その日の体調や気分を配慮し支援しているが、職員の都合で「その時」の希望にそえない時もあり、今後の課題である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時は利用者の好むものをその時に選んで頂いている。朝の整容時には頭髪・ひげそりなど身だしなみに気をつけている。ホームでも化粧品一式を揃えており、外出時など声かけしメイクを楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングより菜園が見え利用者は食べ頃になると職員へ収穫を促し、一緒に調理方法を話し合っている。宅配・商店での商材選びを共にしながらメニューの案を出している。選定・皮むきなど一緒に行い、菜園で多量に収穫があった時や頂きものが多いときは保存用も一緒に作っている。トレー・食器拭きなどを一緒に行っている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に菜園での野菜の収穫や調理の準備、後片付け等をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し、水分量は1日の集計、増減を把握して少ない時には申し送りし対応している。糖尿病の方には、野菜を多く摂って頂くなど支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後一人ひとりの力に応じ、声かけ介助を行っている。地元の歯科医の協力により年に2回の歯科検診を全利用者が受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ・トイレ誘導を行っている。おむつ使用の利用者にも可能なかぎりトイレでの排泄を支援している。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、声掛けや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が出来るよう、献立表の表紙に「便秘に効く食物繊維が多い食品表」を貼り職員は便秘の予防を意識した食事提供をし、運動の声かけ、サイクル運動も継続しているが、薬剤を使用している利用者もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	午前浴・午後浴を実施しており、利用者の入所前からの生活習慣に近い入浴の支援を継続している。他のユニットにリフトが設置されており、必要に応じてお風呂を交換し、リフト浴を行っている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に合わせて柔軟に入浴支援をしている。また、入浴補助のリフトが設置され、職員の負担軽減に繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が安心して眠れるように、場所・時間を限定せず、その方の状況に応じ、居室を明るくしたままにする・共有スペースのソファで眠る・「離れ」で休む等個別に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「お薬リスト」には受診後速やかに最新のものをファイルし、職員はいつでも確認できる。薬が変更した時は、より徹底した様子観察に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	菜園にて収穫・茶碗拭き・掃除・たたみものなど、出来ること・やりたいことを把握し、その方の役割を持って頂き、意欲を引き出す努力をしているが、休息とテレビが多い方もおり、今後の課題である。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時には散策・買い物の支援ができるようにしている。月毎に担当者が変わる「行事担当」は、外出行事も含めた季節の行事を企画し実行の中心となっている。花見・紅葉ドライブは、毎回好評で、恒例化している。	一人ひとりのその日の希望や生活歴、力を活かしながら花壇や菜園で花、野菜を育て収穫を楽しんだり、馴染みの商店での買い物など戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の意向によりお金を持っている方は少ないが、利用者の希望時には、買い物に同行し、見守りを行っている。1回の預かり上限額を2万円とした預かり金よりも利用者の希望時に職員確認の上で買い物などの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかける支援を行っている。電話を受ける家族に希望の時間がある場合は、利用者・家族・管理者で話し合い、利用者が納得した上で家族の希望した時間に電話をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	加湿器・エアコン・窓の開閉により職員は湿・温度の調節を行っている。季節に合わせた飾りを利用者と共に作成し、飾っている。ホームの花壇の花や地域の方から頂いた花・おもちゃかぼちゃなどを飾り、季節を感じられるよう工夫している。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。共用空間には、季節毎の飾りや行事の写真が掲示されるなど季節感や生活感を採り入れて、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	「離れ」は、リビングより離れた所にテーブル・ソファセットがあり、静かで外の景色もひまわり・コスモスが咲き乱れ一人又は数名でゆっくり過ごす人気の場所です。廊下の途中で椅子を2脚並べた所も一人又は二人でゆっくり過ごしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事前面接にてご自身の使い慣れた・なじみのある家具等の使用の継続を提案している。タンス・仏壇・写真など、利用者様自身の状況にあわせ使用・飾り付けをしている。	居室には、行事参加や家族等の写真が飾られたり、仏壇や使い慣れた家具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口に個人名の表札を掲げ、お気に入りの写真やのれんでわかりやすく工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600210		
法人名	特定非営利活動法人 ゆうあいネットあつま		
事業所名	グループホーム えがおの家 ほの家		
所在地	勇払郡厚真町京町31番地1		
自己評価作成日	平成29年9月4日	評価結果市町村受理日	平成29年10月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&JirvosvoCd=0193600210-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジент株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアプランに沿ったケアが出来るように、個別にて利用者のニーズをスタッフが情報収集し、共有することにより、その方にあった支援として、散歩・買い物などの外出を積極的に行っている。また、日々の生活の中で、利用者一人ひとりの生活歴や残存能力をいかし家庭菜園などの支援も行い、施設内だけではなく、屋外迄の広い視野で行うよう心がけ、毎月の行事は季節に添った計画や地域のイベントへの参加など、ご家族のご協力も頂き行事を行っている。入居者の介護度も上がり、家庭菜園や花植え等一緒に行う事が段々難しくなっており、車椅子に座り野菜の選定や皮むき等の手伝いやその方の出来る事で収穫祭等に参加されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	えがおの家・基本理念とケア理念を玄関・ケアステーション・休憩室等の目に付く所に提示し、会議や業務の中で意識し、実践につなげているよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや町内の行事には利用者様に声かけし参加するよう努めている、ホームのイベント等にはポスター等を貼り地域の方達にも参加して頂けるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まちなか交流館「しゃべる」・介護お気軽相談窓口・茶話処カタローネの設置・中学生の福祉体験の受け入れなどを積極的に行い、日々の実践を地域の方に向けて発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に地域包括・近隣住民・利用者家族に参加して頂き、利用者様の状況や活動報告等の情報交換が出来るよう概ね2か月に1度運営推進会議を開催しサービスの向上の努力を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回、地域包括の職員が出席している。ホームの行事等にも出来るだけ参加して頂くよう声かけしながら、地域包括等の職員との意見交換等で協力関係を築けるよう努力を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	採用時研修や内部・外部研修を行い職員全員が理解し拘束のないケアの実践に取り組んでいる。玄関の施錠は職員体制と外部よりの安全性も含め夜勤者1名になる夜間帯のみ行っており夜間以外はセンサーを活用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止指針を定め入居契約時にご家族様に提示している。内部・外部の研修で資料を用い虐待の種類や起こる要因等の理解を深めた上で、認知症に対する理解をしながら、環境作りにも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修等で成年後見制度について学んではいるが、現状では関わりを持つ機会はなく、成年後見制度の資料はあるが職員の理解は不十分と思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問や不安な点は管理者が事前面接を行い利用者や家族・介護員などの不安や疑問点の理解・納得して頂けるよう意識している。契約時における重要事項説明書や利用契約書の説明に時間をかけお互いに納得しながらサービスを始められるよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情・相談窓口」を玄関に提示し、契約時の重要事項説明書の説明に理解していただいている。ご家族様の訪問時等にはご意見やご不満を伺えるよう、改善に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回の会議を通し、意見や提案などを、聞いていけるような体制や関係性を作りながら、可能な限り会話できるよう努めており、職員連絡ノート等活用しながら、反映出来るよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格修得の為の助成金・夜勤手当の引き上げ住宅手当・給与のベースアップ・通勤手当等家庭状況にあわせ無理のないシフト作り等職員が無理をせず、安心して働ける環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要となる共通の知識や技術は会議や研修等で学べるよう取り組んでいる。今年は介護職の未経験者・無資格者が3名おり仕事をしながら初任者研修を受講、2名は10月から受講予定である、年間外部研修計画も作成しており、受講希望の研修も可能である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	町内のグループホームとは夏祭りに招待したりされたりの関係が続いており、入居者も含めた交流の機会の取り組みを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時には、ご自宅や病院に訪問し、ご本人の生活状況や不安な事など確認しながら入所に向け、本人が安心できるような関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時の日程の打ち合わせやご家族が現在抱えている不安や悩み、施設に対しての考えを出来る限り理解しどのように支援していけるか、共に考えていけるよう関係の構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時や入所後においても、ご本人・ご家族様・入所前のケアマネなどから情報を収集し職員全員が「その時」の要望を共有しながら、必要とすることがあれば、他のサービス利用も含めた対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を人生の先輩としての意見を聞きながら、自分の出来る事と出来ない事、日々の生活の中で自分達が出来る力の継続、共に暮らす者、支え合う関係を築いていくよう努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には近況報告を含めご本人の思いを伝えながら、家族様の思いを聞くなど面会や行事等にも参加して頂けるようお知らせしたりする事で、参加される家族様も多く、共に本人を支えて行く関係を築いてきている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの商店への買い物同行。ご家族や友人の面会は自由に過ごして頂ける環境作りに努め、馴染みの場所への外出希望は極力対応できるように努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同志の相性 好み等を把握しながらトラブルを未然に防げるよう努め、相性の良い利用者様の同志が心地よく過ごせるよう努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の入院先へのお見舞い、ご逝去じのお参り等は理事長も行っている。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人はどうしたいのか」という事を考えた支援を心がけ、意思表示の困難な方に対しては、その方の生活歴、その他ご家族等から得た情報を踏まえ本人主体となれるような関わりがもてるよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居時の情報を活用しながら、継続的にその方を知るために、ご本人・ご家族・周囲の方から、生活歴・性格等の情報収集をこまめに行えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	軽度者が多いことから、本人の意思を確認しながら、できるだけ個々に適したアクティブな生活を支援するよう努めている。状態を把握し、本人の意思を確認しながら、無理強いのない生活を支援できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りや気づきを会議等で検討しながら、現状に即した介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の記録にはバイタル・水分・排泄等、処置チェック表の記録の記入で全職員の情報共有することに努めているが日々の特記事項の記録については記入漏れがあり、今後より良いものになるよう話しあっていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズにより対応できるよう外出の機会を設けたり、職員の共通認識のもとで柔軟な対応が出来るよう努めたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事参加の声かけを行い、参加したり、参加して頂いたり、皆で楽しむ事が出来るよう努力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医である協力医療機関との連携により、夜間や休日でも速やかな対応ができる。ほとんどの方が入居前からの主治医であり、家族様の同意の上、町内の受診には同行している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関から週2回看護師の訪問があり身体状況・体調変化などを相談しながら、受診の必要性や対応等を検討している。昼夜間の緊急時には電話連絡にて対応できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は情報提供を行い、入院の状況や退院についての話し合い、早期退院に向けての情報交換の関係作りを行っている。相談員からの現状報告等の情報も頂けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化・看取り指針」の説明を行い、重度化した場合は医師・看護師と連携をとりながら、ホームで出来るすべての事を家族様と話し合い共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルはいつでも回覧出来るようになっていて。今年度は9月と10月に地元消防署の協力により、全職員が 普通救命講習を受講予定となっている、		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て全入居者・全職員参加の避難訓練実施を継続し、緊急連絡網を使い、避難方法・誘導方法等を確認しながら訓練を行っている。隣人には緊急時の応援をお願いしており、町内の福祉施設と避難の協力体制を取っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念に基づき、過去の性格や生活歴、入所されてからの様子などを踏まえ、日々の生活の中で関わりを持つよう意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「本人はどうしたいのか」という事を考えた支援を心がけ、意思表示の困難な方に対しては、「本人ならどうしたいのか」と本人主体となる考え方を、可能な限り本人の思いや希望を表現できるような関わりを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ご本人の意思で行動できるような声かけを行っているが、職員配置の関係や何かが重なってしまった時や時間の関係から、こちら側の都合になっていしまう事があるので可能な限り希望に沿えるような支援を心がけたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の尊厳を守りながら、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るような声かけやお手伝いを心がけるとともに、口元や衣類の汚れ、衣類の乱れ、髭剃り等最低限の身だしなみの意識を心がけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に献立を考えながら準備や後片づけ等を行い、時には出前や外食等を計画し、職員と会話を楽しみながら食事を行っている。毎食後食器洗いや食器拭き・トレー拭きとその人ができる作業を一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、1日の集計・増減を把握し、少ない時には申し送りにて対応している。自然排便を目標に食物繊維や主食の量の統一を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ・見守りと介助を行い口腔ケアを行っている。夜間は義歯を預かり義歯洗浄剤で洗浄している。年2回地元の歯科医の協力を得て歯科検診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握でトイレの声かけ・誘導を行い、パットや紙パンツ等利用している入居者にもできるだけトイレやポータブルトイレでの排泄を継続できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤を使わず自然排便を目指し食物繊維の多い食品の継続・水分量の把握しながらの献立の工夫は継続しているが、やはり薬剤に頼らなければいけない方もおり、排便管理表を確認しながら看護師との連携を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	毎日午前・午後と入浴出来るため、本人の希望に合わせ、無理強いすることなく清潔保持が保てる。拒否が強い方にも、声かけのタイミング・介護員の交代・などで出来るだけ週に2回～3回の入浴を心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣の把握でその時の体調や希望のより、自由に休めるように支援しているが夜間安眠が出来ない事がないような声かけは行うようにしている。各居室の温度等の環境整備にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容・目的・副作用等は「おくすりリスト」に受診時の処方箋をすぐにファイルする事で確認することにし、薬の変更等は記録・申し送り等で全職員が把握し、誤配・誤薬のないように気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活における役割については継続して行えるようにし、新たな役割を見つけられるように努めたい。テレビだけでなく散歩・歌・作品作り等ご本人が楽しみと思えることを行っているが気分転換を図れるよう心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見・地域のお祭り・近隣のグループホームの夏祭り・盆踊り・紅葉見学等の外出は恒例化しており、個々の散歩や買い物希望時には個別に同行を行っている。個人の町外の外出等は家族の協力を得ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の同意を得てお金の所持をしている入居者は数名おり、買い物時に同行し自身で支払いの見守りは行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ自由に電話連絡連絡が出来るように支援している。希望時に電話の番号を押す等の手助けは行っている。家族宛の年賀状作りも行えており、今年も予定している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間・各居室等の湿度・温度の管理については湿温度計で確認し快適に過ごせるよう配慮している。季節感が感じられるようなディスプレイを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・離れ・渡り廊下などにはソファやテーブルを置き一人で過ごしたり、気の合った入居者同士で心地よく過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の事前面接には出来る限り、自分で使っていた家具や馴染みのある物の持ち込みをお願いしており、自分の馴染みのある物で少しでも安心した生活環境で過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口には個々の表札や馴染みのある物や手作り作品などを掲げ、のれんやカーテン等で自室が分りやすく工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム えがおの家

作成日: 平成 29年 10月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	38 40 48	<ul style="list-style-type: none"> ・話しやすい入居者とだけ関わる事が多い。 ・部屋で過ごしがちな入居者の気分転換が出来ていない。 ・業務優先になってしまう事が多い。 	業務優先にならず、一日の中で必ず利用者様全員と積極的に関わりを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝晩のあいさつはもちろん、食事の時やおやつ時など一緒に座り、会話を多く持つ。 ・皆が楽しめるレクリエーション等を多くする。 ・一人ひとりの能力や残存機能を考え、楽しめる日課や役割が持てるようにする。 	1年
2	27	個別の介護記録において、情報だけの記録になっており、継続したケアにつながる記録になっていない。	職員間で情報を共有しながら、継続したケアにつながる記録を書くことが出来る。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人毎に記録の学習をする。 ・全体会議にて、記録に関する内部研修を実施する。 ・各職員がケアプランを把握し、プランに添った記録を意識して介護記録に記入する。 	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加してください。